

「全国コットンサミット in 岸和田」が開催されました  
開催概要をお知らせいたします。

2011年7月12日

目的：綿花栽培に関わる人々、団体が一堂に会して、栽培の実情と苦勞している話、今後の抱負を報告しあい、綿花栽培を通じて現代の「時代価値」を考える。

日時：2011年5月21日土曜日 午後1時開始

場所：大阪府岸和田市 浪切ホール

参加者：推定 300人

## 1 「全国コットンサミット in 岸和田」 プログラム概要

第一部：近藤健一とコシノユマの幸せトーク

第二部：各地での取組報告

第三部：共同宣言、次回開催地決定と引き継ぎ

## 2 事務局体制

主担：(株)大阪繊維リソースセンター

副担：大正紡績(株)

全面協力：岸和田商工会議所

岸和田市役所

鳥取県境港市

奈良県広陵町

夢つむぎ会

### 3 報告ダイジェスト

- ・近藤健一サミット会長の開会宣言
- ・岸和田少年少女合唱団による歌唱



- ・来賓のご挨拶



岸和田市長 野口 聖氏



経済産業省繊維課長 富吉 賢一氏

## 第一部：近藤健一とコシノユマの幸せトーク

近藤氏とコシノユマ氏二人で、「コットンと生活」を視点について語り合った。将来の日本でのものづくりのこと、子供のこと、オーガニックコットンのことなど。



### 近藤健一氏

綿花ってすごい！綿をとった種は、搾れば綿実油、高級油でしょう。その油粕は、野菜とか花にすごいい肥料なんです。だからコットンって本当捨てる所ないんだよね。（中略）

東北の被災された農家、普段お米作っている人が、コットン作ったら、また違う世界が開けるんじゃないかなあと思います。

（中略）

幸せトークやるには、結婚されて出産されて、会うたびにきれいになるユマさんがいいなって。コットンの魅力はどうか？

### コシノユマさん

子育てを通じて、コットンの重要性を再認識し、「たぶん体がそういうトレーサビリティとか安全とか全て人間のエネルギーがその一つの商品そのものに伝わってることを体で感じて、だからそれを好んで使って、生活しているんじゃないかなと思っています」



## 第二部：各地での取組報告

コーディネータ 松田氏



### 1 北海道/小樽市 こっとんふぁーむ花畑鮮花 宮崎和枝

栽培環境の厳しい北海道で8年間綿花栽培に取り組み、賛同者を「コットニスト」としてまとめあげ、将来製品づくりを目指している。



### 2 長野県/上田市 信州大学繊維学部 西松豊典

信州上田市に位置する信州大学繊維学部は日本で唯一繊維学部が残る。100坪の付属農場で、1958年から品種保存の為に27品種の綿を栽培している。学生と皆さん綿花栽培グループと交流させていただくことで、学生の励みにしたいと思っている。



### 3 奈良県/広陵町 タビオ奈良株式会社 越智直正、島田淳志

3年前から広陵町の町長のお世話で、3.4ha、綿花の種が1500苗ぐらいで栽培している。今回サミットに参加させていただいたのは、東北大震災で被災した農家を救済する活動にご賛同を得たいため。



綿花は塩耐性が強く、3年植えると除塩され元の田畑に戻る。被災した田畑は排水溝などの損傷で作物を植えられない、そんな状態から元に戻し、農家を元気にするには綿花栽培がいいと考える。これから協力してほしい。

#### 4 奈良県/大和高田市 村上メリヤス 村上恭敏

「昔、家では綿(わた)つくっとったで」との知人の指摘から、昔のものづくりに習ってみようと考えたのがきっかけである。「マイ綿プロジェクト」と称して、いろんな方と綿花を育て、綿繰りなどのワークショップを行っている。栽培からのストーリー性をもった商品として、「新大和木綿物語」を作り、今後も地域振興を目指してがんばりたい。



#### 5 NPO 法人河内木綿藍染保存会 村西徳子

大阪府の緑化活動で河内地域に、6グループ30名ほどで1000粒のコットンの種をまき、「夢のコットンロード」を作っている。NPO法人河内木綿藍染保存会として、河内木綿の藍染の文様の仕事をしているが、設立10年で綿花栽培に挑戦しようと先のプロジェクトに協力している。将来は、「平成河内木綿塾」として、栽培から収穫、糸繰り、織り、藍染の文様など教える一貫した塾を実施したい。



#### 6 兵庫県/西脇市 大地のぬくもりコットンボール銀行 小野圭耶、

丸山千穂、沼田まきこ、糸瀬由香、吉田あゆ美、百山晃喬<sup>てるたか</sup>、松尾風花

大地のぬくもりコットンボール銀行は、綿伝来1200年の節目である1999年5月10日に遠藤さんという職人の方が、オーストラリア人に「綿織物の産地なのに、なぜコットンが咲いてないの？」と聞かれ、綿花栽培を始めたのがきっかけである。その後、様々な活動を通して、1999年から4年間は「全国わたわたサミット」を開催し、100名以上集まったこともある。近年、若いグループ「西脇アイシテルPROJECT」と共に、若者ともものづくりを楽しみ、播州織工房館などで展示やワークショップを開催している。将来は西脇で全国コットンサミットを開催してほしい。



## 7 鳥取県/境港市副市長 安倍和海

境港市は魚と鬼太郎の街といわれているが、300年以上前からこの「伯州綿」を栽培し、それで生業をたてていた。休耕田対策などするなかで、平成20年から1.5haへと徐々に栽培面積を増やし、昨年度は1350kg（種付き）の綿が出来ました。この活動で、耕作放棄地対策、そしてタオルや手ぬぐい、ベビー用品などの特産品開発、そして新たな雇用を生み出し、地域活性化を図りたい。



## 8 香川県/観音寺市 讃岐三白綿の郷推進協会 加地善一

6年ほど前に街おこしの一環で、綿の郷を復活させようと考えた。綿を栽培して製品にして販売して稼いでという発想はなく、この地域に生まれた子供たちに綿をみせたい。綿織りが課題だったので、廃品同様の機械を企業から譲り受け、県費で復元再生した。今から挑戦しようとしている。



## 9 大阪府/岸和田市 夢つむぎ会 木村元廣

10年前にきしわたの会は、2反の田畑を岸和田市から借り、収穫祭として「コットンカーニバル」を開催しました。綿の切り花の販売や、糸紡ぎや機織り、草木染めの体験などを行った。2004年からは岸和田市中小企業振興会の事業として、「木綿物語プロジェクト」と名前も新たにし、加えて企業者の会「夢つむぎ会」が結成された。「きしわた物語」を商標登録し、毎年、製品開発と展示即売会をこの浪切ホールで実施している。今後の課題は、開発した製品の販路開拓である。



### 第三部：共同宣言、次回開催地決定と引き継ぎ

#### 「全国コットンサミット in 岸和田」 宣言文

わが国で本格的な木綿の栽培が始まってから四百数十年が経過。綿花栽培は江戸時代から明治初期にかけて各地に広がり、民衆の生活や文化に大変革をもたらすと共に商品経済を発展させました。さらに明治時代以降は、それらを基盤にして綿紡績、綿織物などの繊維産業を発展させ、日本の近代化を推し進める原動力となり、国民の生活向上にも大きく寄与してきました。

また、戦後日本の復興・発展に際しても繊維産業は大きく貢献してきましたが、現在はアジア諸国の追い上げ等世界経済の環境変化もあり、苦境に立たされています。

振り返ってみれば、わが国の繊維産業は大きな発展を遂げましたが、この百年余りの間、木綿の栽培は一部の地域を除いて顧みられることはありませんでした。木綿が大地の恵みによる産物だということさえ、大多数の国民は実感できなくなってしまいました。

しかし、織物や衣類は各民族・各地域の生活文化の特性を示す基盤です。その素材が忘れ去られ、さらに製造技術さえ国外に依存するような民族の文化は「根なし草」になりかねません。

そのような状況を打開し、繊維産業の新たな活路をめざす各企業の様々な取組みや、「地域の歴史や文化、産業を見つめ直そう」「まちづくりや観光にも生かしたい」などの思いで綿花栽培に取り組む市民活動が全国各地で生まれ、地道に活動を進めてきました。また、最近では大手企業の一部も木綿栽培に着手するなど、新たな動きも生まれてきました。

(中略)

もちろん、国産木綿の復活による新たな繊維産業の再生・創出と言っても、本日の各地の報告が示すように容易なことではありません。この間に失われた機械や技術の再生、国産綿にふさわしい新たな製品の創造や販路の確保等々、障害や困難、課題が山積しています。

しかし、個々の地域や市民、企業では解決困難な課題も、「コットンで幸せを広げよう」を合言葉に、相互に協力・共同の輪を広げ、全国的な連携を生み出せば、新たな展望を切り開くことができると確信します。また、私たちの思いや活動、本日のサミットで示された数々の提起は、今後のわが国の産業や文化の一つの方向をも示したものであると確信します。

そして、私たちはこの「新たな胎動」を一過性のものとしないうちに、来年以降も開催場所を変えながら継続してコットンサミットを開催し、交流・連携を図っていくことを確認し合いました。

私たちは、本日参加した各々の個人・団体・企業が協力・連携を深め合いながら新たな一歩を踏み出し、来年境港市で開催されるコットンサミットにその成果を持ち寄ることを誓います。

右、宣言します。

2011年5月21日

2011全国コットンサミット in 岸和田

## 来賓祝辞

境港市市長



広陵町 町長



観音寺市 市長代理



大和高田市商工会 副会頭



夢つむぎ会代表 辰巳織布(株) 辰巳美績 挨拶



次回開催候補地として、島根県境港市が内定した。  
「全国コットンサミット」の大会旗が、岸和田市長から境港市長に手渡された。





本広報に関する問い合わせ  
大正紡績(株) 浅田、篠原  
**TEL : 072-470-0909**